

先進国に相応しい安定感ある社会の構築
一多様な主体の参加による地域づくりー
中京大学総合政策学部教授 奥野信宏

平成24年10月22日

I 市場経済における行政と新しい公共

○市場経済に対する批判的意見の噴出

- ・市場機構は人類の知恵の結晶

○市場も政府も失敗する

- ・格差・孤独死問題等は市場の失敗の典型
- ・行政の役割は市場の補完。しかし行政も失敗する。

○市場機構と行政が機能するには基盤として支える社会が必要

- ・高度成長期以降の地域社会の弱体化
- ・新しい公共の育成には、人の繋がりを再構築する問題意識

II 交流・連携が生み出すダイナミズム

○国土政策の基本理念

- ・交流・連携は、経済で価値を生み出す源泉

(1)国土政策における交流・連携の重点の変遷

○全国総合計画(全総、昭和37年)、新全総(44)、3全総(52)

- ・ハードの整備が中心
- ・地方の拠点整備、地方圏と大都市圏を結ぶ交通基盤の整備

○4全総(62)、5全総(平成10年度)

- ・「地域住民、ボランティア団体、NPO、民間企業等の多様な主体の参加による地域づくり」の考え方が加わった。

- ・「交流・連携」に「ハードの整備」に加えて、「人の繋がり」の意味が入ってきた。

○国土形成計画(第6次国土計画、平成20年)

- ・ハードの社会資本整備とソフトの新たな公が国土政策の両軸

- ・新たな公が支える5つの基本戦略。「東アジアとの円滑な交流・連携」「持続可能な地域の形成」「災害に強いしなやかな国土の形成」「美しい国土の管理と継承」「これらを基盤として支える「新たな公」を基軸とする地域づくり」

○交流・連携の担い手としての新たな公

- ・地域内の交流・連携、国内の広域連携、海外との連携

- ・参加は地域づくりへの貢献、人の生き甲斐にもなる。

○民主党政権で「新しい公共」の呼称を採用

- ・公共心を持って社会で必要とされるサービスを提供する活動や活動主体、それらの意義を評価する価値観を指す。

Ⅲ 新しい公共（新たな公）の4つの役割

①行政機能の代替

- ・行政が提供しているサービスを自らの意思で住民に提供

- ・道路・公園・河川の維持管理、災害対応、旧役場機能の代替等

②行政の補完

- ・行政が提供すべきとまでは言えないが、公共的価値の高いサービス

の提供

- ・古民家の再生、地域文化の保存、地域での子供の教育・介護等

③民間領域での公共性の発揮

- ・ビジネス的な色彩が強い事業について、それに公共的な価値を賦与して住民に提供

- ・ソーシャルビジネス(特産品の開発・販売、観光資源の発掘・事業化、2地域居住)、民間企業による街づくり・エリアマネジメント等

④中間支援機能

- ・官と民、あるいは民と民の触媒・支援機能

- ・重要性を増す中間支援機能

○新しい公共の育成が課題

- ・組織が脆弱(資金、人材)

- ・大学の役割

○雇用での経済効果

- ・ソーシャルビジネスの関するデータ(経産省)

○大都市圏と地方圏の意識の断絶と新しい公共への期待

- ・街筋と谷筋の文化がつくる日本の文化

IV 都市圏の街づくりにおける新しい公共

(1)大都市圏の国際競争力の強化が課題

(2)街づくりの4つの視点

- ①ビジネス活動が効率的に行える街、②高齢者にとっても住みよい街、③国際的に活用される街、④歴史や文化が感じられ、環境に優しい街

○街づくりにおける新しい公共の活動

丸の内、柏の葉キャンパス、廃校の活用、千代田プラットフォーム
スクエア等

(3)大都市を支える広域都市圏

- ・圏域内の諸都市の連携強化
- ・歴史街道計画、GNI、三遠南信地域、九州戦略会議等
- ・圏域内の各地域の新しい公共をネットワーク化